

ラオス環境教育事業

ラオスで実施中の環境教育事業では、これまで活動を行ってきた小中学校8校において自主的に環境教育と環境保全活動が継続して行われるようになり、すぐれた環境保全活動を継続的に実施していく教育局の定めた条件を満たした学校に与えられる「グリーンスクール」に全ての学校が認証されました。ただし、認証は2年毎の更新となってるので、定期的なフォローアップを継続していきます。



理事会・総会の開催

2023年6月7日、第31回理事会を開催しました。2022年度事業報告及び決算報告がされた後、2023年度の事業計画及び予算について意見が交わされ、今後の当協会の運営方針を確認しました。そして、同日の午後に第22回総会が開催され、各議案の審議をはじめ、団体運営についても広く意見交換が行われました。事業報告書類は日本ハビタット協会のHPからご覧いただけます。



ハビタット クイズ?!

ヨーロッパの王国のコインには国王の肖像が描かれています。

- ①～⑤の国の国王をA～Eから当ててください。
- ①スウェーデン ②ノルウェー ③イギリス ④デンマーク ⑤スペイン

- A チャールズ3世 B カール16世グスタフ C フェリペ6世 D ハーラル5世 E マルグレーテ2世

ご協力いただきありがとうございます

2022年12月1日～2023年5月31日

(敬称略・順不同)

会費 塚越勝美、牟田慎一郎、原田義信、井村享、秋本敏文、下津浦康裕、水上茉佐子、三浦教子、下村政裕、今井一彦、今井則余、竹崎勲、大橋俊枝、鬼木誠、橋本久美子、五十嵐滋、林裕二、花島光男、井手説子、麻生渡、紙島弘子、篠原大作、中村徹、大島政子、澤渡好子、藤本貴也、新井てつお、三島康雄、丹波佐和子、原雄次郎、新関文彬、柳瀬ユミ、大橋俊枝、中村幸子、鈴木有、坂本春生、大隅道子、中村勇、大崎博之、清水雄二、山際則子、中村麻子、浅見明子、丸井聰、錦織薫

賛助会員 水口喜美子、大塚麻貴子、安藤裕子、田中正昭、(学)中村産業学園、松本賛次、Champs du murier、(株)新橋スタンプ商会、日亜化学工業(株)、(株)エッチャールディ

ご寄附 SI-熊本さくら、SI-宗像、SI-宮崎、SI-長崎ガーランド、中井禮子、関口芳央、野田泰子、澤渡好子、麓忠司、谷口せい子、清水雄二、原田義信、井村亨、新井てつお、外山まつみ、寺川裕之、渡邊きみ子、水上茉佐子、大塚麻貴子、川畑博敬、竹本直一、青木浩孝、丹波佐和子、今井一彦、佐藤和恵、白澤和子、橋本久美子、吉岡享子、三浦教子、中村勇、松本賛次、高島肇久、藤本貴也、藤田美江子、高濱良平、山際則子、山本雅子、樋口謙一郎、紙島弘子、横山寿雄、丸井聰、(株)しげ吉、ソフトバンク(株)、(株)新橋スタンプ商会、三菱商事(株)

マンスリーサポーター 大下悟、今村稔、岡田耕造、風間麻実、古庄弘美、下村政裕、篠原昭子、清水益美、清水雄二、藤田美江子、美甘政門、三島康雄、山本博子、山本嘉彦、篠原大作

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、(株)日本郵船、(株)ファーランド、(株)エッチャールディ、福岡県東京事務所分室、逗子市民交流センター、SI-大宰府、内田美喜子、澤渡好子、谷口せい子、野田泰子、大隅道子、大塚裕一、中村孝、田口克彦、島田恵、小里俊美、一柳とく江、藤野美樹、田路あつ子、島田昭雄、谷さゆり、鎌滝たみ子、鶴見和代、龍村敦子、小野雅恵、山際則子、佐々木節子、手塚晃子、高井敬子

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、半蔵門駅前郵便局、三菱商事(株)、(株)電通、(株)新橋スタンプ商会、(株)ファーランド、自然食品みや、シルクストーリージャパン、SUGOSU HITOTOKI、せんたい農業園芸センター、農事組合法人シャン・ドゥ・ミュリエ、トラベルクリエイターズ、エクスチェンジアーズ、インターパンク、(社)日本フィランソロピー協会、ハビタット福岡市民の会、子どもの夢ネットワーク、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、アジアの女性と子どもネットワーク、相山女学園、長崎大学、エイズ孤児支援 NGO・PLAS、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム、Global Bridge Network、SOS子どもの村 JAPAN、島田恵、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)、新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

1=B、2=D、3=A、4=E、5=C

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コーポ103号 TEL／FAX：03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp



HABITAT 日本ハビタット協会 まちづくり通信 No.43

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

ケニアにおける「生理の貧困」

マリ・クリスティーヌ

5月28日は「月経衛生デー」です。月経は平均して周期28日間、期間5日間ということから5月28日と国連が定めました。近年、「生理の貧困」は日本でも大きな課題となっており、自治体や学校で無料のナプキンを配布するところも始めています。

ケニアでの「生理の貧困」は大変深刻です。私たちがトイレ建設事業を実施しているホーマベイ県からの報告によると、この地域では生理用品を必要とする年齢の女性の約65%はナプキンを購入できません。8枚入り50KES(約50円)で売られていますが食費等が優先され、お金の使いみちを決める家長に認めてもらえないことが多く、古い布、乾燥した牛糞を布に包んだもの、マットレスのスポンジの切れ端などが代用品として使われています。中には、土に掘った穴の上で終日を過ごさざるを得ない人もいます。一日中同じ布を使い続けなければならない状況で外出できず、学校も休みがちになり学校教育からの脱落にも繋がっています。代用品は清潔ではなく細菌感染の心配もあります。学校では生理に関する教育は全く行われておらず、周りからの理解もほとんどありません。生理用品を買うために身売りをするということも起きており、HIV/AIDSや性感染症、予期せぬ妊娠等の問題にも繋がっています。「生理の貧困」は経済的のみならず、社会的な課題にも繋がり、女性の可能性を大きく遮断し、さらなる貧困へと連鎖しているのです。

ハビタットが推し進めるSDGs11の目標は「住み続けられるまちづくり」です。誰も取り残さない安心したまちづくりのためには、女性や女児が抱える「生理の貧困」を見過ごすわけにはいかないと私は考え、取り組みを進めています。



WOMEN'S LIFE IN KENYA

イメルダさん（17才）高校2年生 ケニア農村部ホーマベイ在 将来の夢：医師になって人を助けたい。

生理の期間中 家から出られない

女に使う金はない！ 生理用品など 買う必要はない。
勉強遅れちゃう… 学校へ行きたい
でも、学校にトイれないし…

男尊女卑の社会

夫に使う金はない！ 生理用品など 買う必要はない。
夫に見られたら恥ずかしい…

生理用ナプキンを 買うお金がない

布ナプキンは洗わない… でも水がない…
服に血がついちゃう…

迷信・偏見・性的な話のタブー

けがれているから 来る！

女性の社会進出の妨げ

大学へ進学して 医師になりたい…

生理について学ぶ機会がない

突然血が… 私、病気になったの？!
どうしたらいいの…

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コーポ103号 TEL／FAX：03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2023年7月発行

HARDSHIPS OF WOMEN IN KENYA

ケニアの女性たちが抱えていること



農村地域の暮らし

世界には多くの人が暮らし、それぞれの国や地域では違った「日常」があります。ケニアでは生活インフラが整い発展が進んでいる首都ナイロビや地方都市がある一方で、農村部ではまだまだ生活インフラが整っていません。

ケニアの農村地域で暮らす女性は農作業から家事、育児とたくさんのことこなさなければなりません。農村地域の一戸あたりの子どもの数は3~5人なので、子どもの世話をしながら、仕事や家事をするのはとても大変です。体に障害を抱えた女性やシングルマザーはさらに負担が増えます。

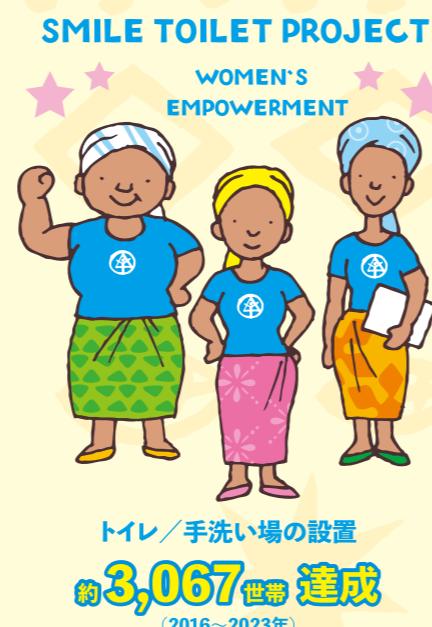
テレビなどで頭に水瓶をのせて歩く女性を目にしたことがあるかと思いますが、水汲みも女性の仕事です。片道15分~20分かけて池や川に水を汲みに行き、水が入った20lコンテナを頭にのせて1日に3~5往復しますが、重さにして20kgを頭にのせていることになります。さらに、3時間かけて洗濯をし、換気の十分でない台所で料理をしなければならず、煙による目や肺などの健康被害が懸念されています。

ケニアでの水と衛生への取り組み

「スマイルトイレプロジェクト」での女性の活躍

ケニア西部ホーマベイ県で実施しているスマイルトイレプロジェクトでは各家庭にトイレと手洗い場の建設を行っていますが、これまでの対象村のトイレ普及率はほぼ100%となり、野外排泄もゼロになりました。年間約15村1300~1900世帯を対象に展開していますが、活動が順調に進んでいるのは各村に20名程いる衛生委員(Community Health Volunteer)のおかげです。この衛生員の8割が女性で、衛生状況調査をはじめ衛生意識を高めるワークショップ、トイレ建設のフォローアップやモニタリングを行ってくれています。

日々の家事や子育てで忙しい中活動に参加してくれていますが、自分達の村の暮らしを良くするための役割を担えることが彼女たちのやる気と誇りになっています。衛生委員達にはプロジェクトのメンバーであることを示すTシャツも配布しているのですが、それを着ることで特別な仕事を任せられたという自信が芽生えるようです。村長や村人も彼女達の声に耳を傾けるようになりますが、中には頑固な村長やユースリーダーもいるため、そのような時は現地カウンターパート「SAWA YUME KENYA」と保健省職員が村を訪問して彼女達をサポートしています。



女性を取り巻く生理の貧困

女性にとって生理期間中は心身ともに大きな負担がかかります。さらに、生理用品は50ケニアシリング(日本円で約50円)ですが、買うことはできず、布ナプキンで代用している場合が多く、何度も洗って使用し続けなければなりませんが、水自体も決してきれいではありません。また、布ナプキンですと吸水性がないため経血が服に付いてしまうこともあります、からかわれたり穢れというある種の偏見によって、外出を控えることもあります。

日本でも少しずつ変わりつつあるものの、性や女性の生理についてオープンにすることはタブー視されてきました。学校において女子生徒だけ別室で生理について学ぶということを経験された方も多いのではないでしょうか。ケニアにおいても学校で生理に関して学ぶ機会もなく、両親が正しい知識を持っていないため、子ども達はどうしたら良いのかが分かりません。

当たり前を変えていくきっかけづくり

このような状況を引き起こしているのは貧困であることはもちろんですが、問題なのは人々の「当たり前」という意識です。女性の働きが家庭の暮らしを支えているにもかかわらず、それが当たり前にやるべきことだと考えられ、生理についても女性は我慢すべきことだと思われています。

社会に根付いてしまっている意識を変えるのはとても難しいことです。女性が本来持っている能力を発揮できるコミュニティのためには、そのような当たり前を変えていく「気づき」と「きっかけ」が重要となります。

★ NEW PROJECT START ★

「生理プロジェクト」女性のより良い暮らしのために

スマイルトイレプロジェクトにより衛生環境が改善していく中で、現地の女性メンバーから女性の生理問題への取り組みが提案されました。生理に対する適切なサポートがされていないことで女性たちが学校で勉強したり社会活動に参画したりすることができていない状況を改善するため、生理プロジェクトを開始しました。

● 「当たり前を変えていくきっかけづくり」へのアプローチ

子どもだけでなく大人にも生理や生理用品の使い方を学ぶ場を提供していきます。また、女性だけでなく男性も女性の生理や性について正しい知識を身に付けることがとても重要になります。男性にも積極的な参加を促し、コミュニティが一体となり女性にやさしいコミュニティをつくっていけるよう活動していきます。

| 新規プロジェクトの活動 | |
|-------------|---------------------|
| 対象 | 実施項目 |
| 学校 | 生理学習用の教材開発と性教育 |
| 親／教員 | 衛生的な布ナプキンの作成方法レクチャー |
| 地域住民 | 啓発活動キャンペーン |

「水プロジェクト」で暮らしと命を守る

各家庭にトイレと手洗い場が設置されるにしたがい、水の需要がさらに高まっていますが、ケニアの農村地域では上水道が整っていないため、雨や川、池の水に頼る生活を送っています。そのような状況を少しずつ改善し、生活に必要最低限の水をしっかりと確保できるよう、2023年2月から水プロジェクトを実施しています。

● 集水効果の高い雨樋の設置

各家庭には雨樋が設置されていますが、材料や形状があまり良くないため、集水効率が低いことが問題でした。雨樋の設置トレーニングを実施し、集水効率の高い雨樋を普及させています。

● 貯水タンクの提供

雨水を貯水できるよう300lの貯水タンクを各家庭に提供しています。WHOでは一人当たり1日2lの水の摂取を推奨していますが、ケニアは平均5人家族なので、1日10lの1ヶ月300lが目安となります。



その他、水汲みの効率的な運搬方法の提案、家庭式ろ過装置の導入を進めています。人々の暮らしや命に必要な安全な水を使えるだけでなく、女性や子どもの水汲みなどの労働の軽減にもつながります。

| ケニアの物価 | |
|-------------|---------|
| 卵 (1個) | 10 KES |
| 水 (500ml) | 30 KES |
| ナプキン (1袋) | 50 KES |
| ガソリン (1L) | 180 KES |
| ビール (500ml) | 200 KES |

